

## 国際理解教育/開発教育 学習指導(活動)案

## 【実践者】

授業者氏名	告野 さつき	学校名	神戸市立 福田中学校
教科(科目)・領域	保健体育	対象学年(人数)	3年 3組( 35名)
実践年月日もしくは期間(時数)	R7年 10月31日( 1 時間)		

## 【実践概要】

1. 単元名(活動名): 人々を結びつけるスポーツ					
2. 実践する教科・領域 保健体育	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化共生	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加		
4. 単元の目標(評価規準を意識して設定)					
スポーツの社会的価値を理解し、多様性と協力の重要性を認識する力を育む。					
5. 単元の評価規準	①知識・技能	国際スポーツ大会の社会課題を書き出したり、話し合ったりしている。(国際理解教育) スポーツの社会的価値(多様性・共生・公平性)について理解している。(保健体育)			
	②思考・判断・表現	肯定的な事例と課題的な事例を比較し、自分の考えを論理的に表現できる。(保健体育) SNS やメディアの情報を批判的に読み解き、課題に対する自分の意見を持てる。(国際理解教育)			
	③主体的に学習に取り組む態度	スポーツの社会課題について、課題の解決に向けた学習に自主的に取り組もうとしている。(国際理解教育)			
6. 単元設定の理由・単元の意義					
【単元設定の理由あるいは単元の意義】					
<p>現代社会においては、国籍・文化・性別・身体的特徴・価値観など、さまざまな「違い」を持つ人々が共に生きることが求められている。中学3年生は、進路選択や社会との接点を意識し始める時期であり、他者との違いに向き合い、共に生きる力を育むことが重要である。</p> <p>本単元では、ラグビーワールドカップ2019の「ONE TEAM」に象徴される多様性の受容と協力の姿勢を肯定的に捉える一方で、男子バスケットボールの審判への誹謗中傷といった課題事例を通じて、スポーツが持つ社会的な価値と課題の両面を学ぶ。</p> <p>これにより、生徒は「違いを超える」とは単なる協力や仲良しではなく、他者を理解し、尊重し、課題に向き合う姿勢を持つことであると実感を伴って学ぶことができる。</p>					
【生徒観】					
男子16名、女子19名(内、特別支援学級生徒1名)が在籍している。この3年間で総合的な学習の時間などで国際理解教育などをテーマに取り扱ったことがなく、各教科に含まれている内容を取り扱っている程度である。本校には外国籍生徒は1名もおらず、日ごろから異文化に触れ合う機会がほとんどない。LGBTの生徒が在籍していて、そのような生徒に対して一定の理解はある。					
【教材観】					
本教材では、ラグビーワールドカップ2019の「ONE TEAM」に象徴される多様性の受容と協力の姿勢を肯定的に捉える一方で、パリオリンピックにおける男子バスケットボールの審判への誹謗中傷を通じて、スポーツにおける課題を					

考察する。違いを超えるためには、単なる協力だけでなく、正確な知識・情報リテラシー・他者への尊重が不可欠であることを学び、共生社会の実現に向けた態度を育むことができる。

### 【指導観】

中学3年生は社会との関わりを意識し始める時期であり、進路や将来を考える中で、他者との関係性や価値観の違いに向き合う力が求められる。本授業では、スポーツという身近で興味関心の高い題材を通じて、「違いを超える」ことの意味を具体的に考えさせることで、自己理解と他者理解を深めることを目指す。

体育理論では、身体活動の技術や知識だけでなく、スポーツが持つ社会的・文化的な価値を学ぶことが重要である。ラグビーワールドカップ2019の「ONE TEAM」は、多国籍チームである。違いを乗り越えるためにチームとして様々な活動を行い文化の違いを受け入れる工夫を重ねた結果、ベスト8という今まで日本でなしえなかった結果にもつなげることができた。そのような肯定的な例として紹介する。一方、パリオリンピックの課題事例では、SNSによる誤情報や偏見がスポーツの公平性や尊重を脅かすことを示し、スポーツの持つ課題にも目を向けさせる。

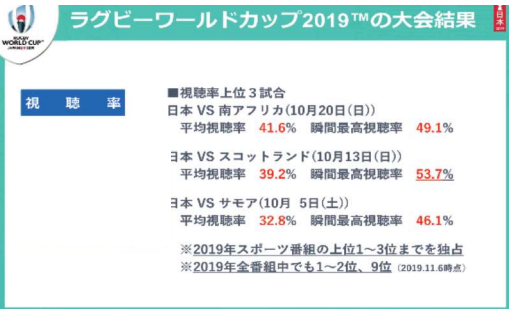
## 7. 単元計画(全1時間)

時間	ねらい	学習活動	資料など
1 本時	スポーツを通じて、国籍や文化の違いを超えて協力し合うことの重要性を理解する パリオリンピックの課題事例を通じて、スポーツが持つ社会的な価値(多様性・共生・公平性)を理解する	○多国籍の選手が多いラグビー代表選手がONE TEAMになるために日頃から取り組んでいたことは何かを予想し、意見を出し合い共有する ○クラスの体育会への取り組みにつなげられるか話し合う ○パリオリンピックの日本代表戦の審判についての意見を共有する ○単元を振り返る	ラグビーワールドカップの動画 資料①ワールドカップ TV 視聴率 資料②パリ五輪 バスケットボール日本代表戦の審判の SNS 誹謗中傷内容

## 8. 本時の展開(概略) 本時のねらい

スポーツを通じて、国籍や文化の違いを超えて協力し合うことの重要性を理解する

パリオリンピックの課題事例を通じて、スポーツが持つ社会的な価値(多様性・共生・公平性)を理解する

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)												
導入 (19分)	<p><b>1. ラグビー日本代表の例を紹介し、スポーツを通じて国籍を超えて一つになれることを共有する</b></p> <p>T)この人は誰でしょう? ヒントは何年か前に日本でブームになったよね?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーチマイケル。ラグビーの日本代表選手</li> <li>・誰かな? 見たことある</li> </ul> <p>T)その通り。この人がブームになったのではなく、ラグビーワールドカップが今まで日本ではあまりクローズアップされなかったけど話題になったよね</p> <p>T)この時の日本代表選手のメンバーを知っている?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人の子供がいる</li> <li>・外国の人多い</li> </ul> <p>T)でもこのときの日本の流行語大賞を覚えている?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・覚えてない</li> </ul> <p>T)「ONE TEAM」。そのこと</p>	<p>当時のラグビー日本代表の写真を見せる</p> <p>その当時の TV 視聴率と日本代表の戦績を見せる</p>	<p>写真①</p> <p>写真②</p> <p>資料①</p>  <table border="1"> <caption>ラグビーワールドカップ2019™の大会結果</caption> <thead> <tr> <th>試合</th> <th>平均視聴率</th> <th>瞬間最高視聴率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日本 VS 南アフリカ(10月20日(日))</td> <td>41.6%</td> <td>49.1%</td> </tr> <tr> <td>日本 VS スコットランド(10月13日(日))</td> <td>39.2%</td> <td>53.7%</td> </tr> <tr> <td>日本 VS サモア(10月 5日(土))</td> <td>32.8%</td> <td>46.1%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※2019年スポーツ番組の上位1~3位までを独占 ※2019年金番組中でも1~2位、9位(2019.11.6時点)</p>	試合	平均視聴率	瞬間最高視聴率	日本 VS 南アフリカ(10月20日(日))	41.6%	49.1%	日本 VS スコットランド(10月13日(日))	39.2%	53.7%	日本 VS サモア(10月 5日(土))	32.8%	46.1%
試合	平均視聴率	瞬間最高視聴率													
日本 VS 南アフリカ(10月20日(日))	41.6%	49.1%													
日本 VS スコットランド(10月13日(日))	39.2%	53.7%													
日本 VS サモア(10月 5日(土))	32.8%	46.1%													



<p>展開 (27分)</p>	<p>2.パリオリンピックの写真を見て、スポーツを通じて社会問題になっているテーマを考える</p> <p>T)では今回のラグビーの内容で、「スポーツを通して違いを超える」ということができたということがわかったね。これをスポーツの好事例と考えたと、そうではない部分もあります。次の大会の写真はオリンピックのパリ大会の写真です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これ絶対ファールじゃないやん</li> <li>・これで負けるとかかわいそう</li> </ul> <p>T)この試合が終わった後でも大きな論争となりました。みなさんはこのことについてどう思いますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催国びいき。審判賄賂受け取っているわ。</li> <li>・やり直したほうがいい。抗議する</li> <li>・本気で頑張っている人に失礼</li> <li>・おわったことはしょうがない。</li> </ul> <p>T)では次の資料を見てください。知っている人もいますが、この後この4つの視点から考えましょう。審判のSNSには抗議の内容や誹謗中傷が殺到しました。</p> <p>このような状況で、SNS上での誹謗中傷や抗議がどのような影響を与えるか、またそれに対して私たちがどのように対応すべきかについて考えてみましょう。皆さんはどのように思いますか。</p> <p>1) SNS上での誹謗中傷の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・審判の人が追い詰められてできなくなる</li> <li>・審判の人が自殺するかも</li> <li>・デジタルタトゥーが残る</li> <li>・他の大会の審判がしにくくなる</li> </ul> <p>2) 抗議の正当性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SNSではなくてIOCに言う</li> <li>・VARを使う</li> <li>・行き過ぎた抗議はダメ</li> </ul> <p>3) スポーツマンシップの重要性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・終わってから文句を言わない</li> </ul>	<p>見せた後写真の概要を説明する</p> <p>ワークシート3記入 記入後、グループで共有する</p> <p>写真③について追加情報を提示(資料③を見せる)する</p> <p>グループで話し合う。 そのあとワークシート4を記入</p>	<p>写真③ バスケ男子「16.4秒の悲劇」</p> <p>資料③ 3つのSNSの誹謗中傷コメント</p> <p>ワークシート3</p>
---------------------	---	--	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲良く礼儀正しい</li> <li>・お互いいい気持ちで終われるようにする</li> <li>・第3者は口を出さない</li> </ul> 4) SNSの使い方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・いやなコメントをしない</li> <li>・人種のことや性別の差別的なことは書かない</li> </ul>		
まとめ (5分)	<p>グループの意見を聞きこのグループ内でも様々な意見があったと思います。全員全く同じというグループはありましたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全員ではないけど何人かは同じ意見があった</li> <li>・ほぼ一緒</li> </ul> <p>異なる意見や価値観を持つ人と対話する際に、その人と尊重し、受け入れることはできましたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受け入れられる</li> <li>・状況によって、ついつい誹謗中傷などしてしまうこともあるかもしれない</li> </ul> <p>この一つのテーマでお互いの意見を尊重することも違いを超える一つです。最後に振り返りシートに最後に気づいたことを書きましょう。</p>	個人で記入	ワークシート4

<p>9. 評価規準に基づく本時の評価(評価方法)</p> <p>スポーツを通じて、国籍や文化の違いを超えて協力し合うことの重要性を理解し、表現できる。          パリオリンピックの課題事例を通じて、スポーツが持つ社会的な価値(多様性・共生・公平性)を理解し、表現できる。          (グループ討議での発言、振り返りの記述)</p>
<p>10. 学習方法および外部との連携</p> <p>1. アクティブ・ラーニングの導入          グループ討議・協働学習を通して、ラグビーとオリンピックの事例を比較し、「違いを超える」ために必要なことを話し合う。また、授業後に自分の気づきや考えを記述することで、内省を促す。</p> <p>2. ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 映像資料(試合映像、インタビューなど)を活用して臨場感のある学びを提供。</li> <li>● タブレットやPCを使って意見共有を行う。</li> </ul>
<p>11. 学校内外で国際理解・授業実践を広める取り組み</p> <p>今まで国際理解教育を大々的に取り入れたことはないので1からのスタートである。学年では、9月～10月の期間中に道徳や保健分野でも取り入れる予定である。まずは、学年で取り組みを入れて教材等を他学年に紹介し、来年度は計画的に総合的な学習にも取り入れたい。その際、JICA 関西との交流事業なども取り入れられたらと考えている。また、次年度から神戸市では部活動が廃止となり、地域移行クラブになる。そこで JICA 関西の場所を拠点に、国際理解を学べるクラブを立ち上げる。そこでは子供たちの学びの場だけではなく、教員の学びの場にもしていく予定である。そこで教材の共有なども積極的に行っていきたい。</p>

## 【自己評価】

<p>12. 苦勞した点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の国際理解という点での理解不足を痛感した。</li> <li>・指導案は、第1案でパリオリンピックのボクシング女子の内容も盛り込むことを考えていたが、トランスジェンダーの見解というところでも、こちらの認識不足があったと感じた。結局、時間の関係でその内容は取り入れないことにしたが、人権にかかわることを題材にするときに、発問の仕方などで逆に偏見を生んだりしてしまうので、安易な発言</li> </ul>
---

はできないので、取り上げる際は注意しないといけない。

・本指導案の作成にあたり、大津先生から多くのご指導と添削をいただきました。その過程で、私自身が「多様性」や「公平性」といった言葉を、安易に用いてしまいがちであることに改めて気づかされました。言葉の選び方一つひとつに配慮し、より適切かつ慎重に表現することの重要性を学ぶことができました。

### 13. 改善点

前半にラグビーワールドカップ、後半にオリンピックのバスケットボール日本代表戦の内容を行ったが、どのクラスもどうしても後半の内容が印象深かったのも、最後の振り返りも、後半の内容に集中してしまった。やはり、審判のジャッジなど自身の身近なことから考えやすかったこと、「なんで」「どうして」という題材だったので興味をもちやすかったからだと考えられる。また、ワークシートもこちらが思っている以上に、毎回の課題でワークシートに一生懸命書いていたので、最後の振り返りの時間が個人で書いて終わってしまった。「このような状況で、SNS 上での誹謗中傷や抗議がどのような影響を与えるか、また、それに対して私たちがどのように対応すべきかについて考えてみましょう。皆さんはどのように思いますか。」という問いに対して、4つの視点で考えさせたが、2つの視点にしたらもう少し時間を短縮できる。

### 14. 成果が出た点

・やはり、これだけ添削していただき、何度も見直した指導案をすると、どのクラスもグループワークでも差があるものの、とても積極的に話している様子だった。普段であれば、人に意見を伝えることより自分で書くほうが話し合いをしなくてすむ、と考える生徒でも積極的に発言していた。

・体育会が近いということもあって、前半のクラスが仲良くなるためにという発問では、子どもたちが楽しそうに自分たちのことに置き換えて話していた。この後に、実際に自分たちで話し合ったことを実現させられる機会があったら、もっと良かったと思う。ここのグループワークで積極的に話し合いをしていたクラスは、体育会練習中の作戦を考える場面や、バスケットボールの授業の中で、1学期よりも協力して話し合えるようになっている。

・はじめに授業を行ったクラス(4組)には、日本人の父とタンザニアの母がいる生徒がいる。普段から肌の色のことでクラスの生徒からからかわれることがあり、その生徒が怒りを抑えていることもあった。今回の授業でも、本人や周りにはどんな反応になるかと心配していたが、授業内でとても積極的に話しており、いつもからかっている生徒も興味深そうに話を聞きながら会話をする場面が見られた。本人も普段は家族の話などあまりしないが、もう一つの母国の話を、授業後の休み時間にも生き生きと話す様子が見られた。今回の授業における最大の成果は、外国にルーツを持つ生徒が、これまで日常的に感じていた偏見や差別的な場面について、国際理解教育の授業を通じて自ら向き合い、結果として自己肯定感を高めることにつながった点である。また周囲も理解が深まり、差別的な発言ではなく興味関心につながるのだ。このような場面をみられたことが、一番やってよかったと思えた点である。

### 15. 学びの軌跡(児童生徒の反応・感想文・作文・ノートなど)

#### 1組) 振り返りと感想(後半のバスケの内容の意見が多かった)

・楽しくプレーできるためにルールっていうのは1度したことはも戻れないからルールの下で楽しむ。そして審判も間違ってしまうことは誰にでもあるから必要以上に責めない。

#### 2組) 振り返りと感想(ラグビーの外国人が多いということをはぼ知らないクラスだったのでその意見もあった)

・ラグビーは日本代表に外国人がいてもいいことがいと知らなかった。グローバルミーティングなど自発的にチームメイトがしているのがいいと思った。そういうとチームは強いチームを生んだんだと持った。

#### 3組) 振り返りと感想(自分の審判の経験から相手の気持ちに立っても考えるという意見が多かった)

スポーツは人と人との関係を差別なく結ぶことができ、それによって誰かと何かを達成することや喜びや絆が芽生えるが、その人間関係のなかでよくないことが起こってしまうこともあるのでお互いいい気持ちでいられるような関係を結びたいです。

・写真をみたときはファールちゃうやん。日本チームかわいそうだと思ったが、自分がテニスの審判をしたときに、やっぱり審判も一生懸命やってもうまくいかないこともある。もう少し別の目線からも考える必要があると思った。

・スポーツは差別なく結ぶことができればそれによって誰かと何かを達成することができる

・今回の授業を受けて国の文化や違いを超えてみんなで楽しくそれぞれの高みを目指しスポーツをすることが人と人がつながるために大切なことだと思った。

#### 4組) 振り返りと感想(一番スポーツに興味を持っている生徒が多く、世界情勢などにも興味があり話し合いが盛り上がったクラス)

・バスケで審判のことなどで炎上しすぎると国際問題に発展し、最悪戦争が起きるかも。何事でもほどほどが大切だが、止めるためにVARなどを積極的に導入したり、SNSへの規制を積極的にするべき

・外国人選手をいれることで日本人の活躍のチャンスも減るかもしれないと思ったが、日本人選手も刺激になって強くなると思う。また、さまざまな国の人と協力して同じ方向に向かうことができることはスポーツのいいところだと感じた。

### 16. 授業者による自由記述

・この授業のほかに道徳で授業も国際理解教育を行った。もっと生徒に世界のことを知ってもらう機会を作りたいと感じたし、自分自身も一緒に学びたいと思った。

・現在の日本の社会情勢では、外国人に対する風当たりが強い傾向が見受けらる。そのため、来年度以降も多文化共生や国際理解教育について積極的に発言していくべきか、慎重に考える必要があると感じている。逆に考えると、そういう時こそ誤解偏見を減らすためにもすべきともいえる。もっと年間計画から学年全体に取り入れたいと思った。そのためには同じ職場の教員にどう理解を深めていくかが課題であるので、1月2月の研修で話し合いたい。

#### 【参考資料】

- ・ [ラグビーW杯が日本にもたらしたもの 経済効果分析&大会成果分析レポート - ラグビーリパブリック - Page 2](#)
- ・ [パリ五輪『16・4秒の悲劇』…バスケ男子日本に何が起こっていたのか!? 河村勇輝は嘆き、相手監督も驚いた証言でひも解く“世紀のファウル”：中日スポーツ・東京中日スポーツ](#)
- ・ [【男子バスケ】河村ファウル判定問題、止まらぬSNS「誹謗中傷被害」女性審判に続きFIBA インスタも被害 - ライブドアニュース](#)
- ・ <https://www.bbc.com/japanese/articles/c4ngn82wgxpo>
- ・ 現代国際理解教育事典改定新版(2022/3/6 明石書店 国際理解教育学会著)
- ・ ラグビーワールドカップ 2019™日本大会 大会報告